

平成 29 年度の検討事項と基本方針(案)

1 検討会設置の背景

平成 18 年3月の中央環境審議会 大気環境部会報告「揮発性有機化合物の排出抑制に係る自主的取組のあり方について」において、「VOC 排出抑制対策の進捗状況を把握するため、(中略) VOC 排出インベントリの整備・更新を行う必要がある」とされた。それを受け、環境省では揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会を設置し、年度ごとの VOC 排出量を「排出インベントリ」として作成してきた(表 1)。

また、平成 24 年 12 月に中央環境審議会から答申が示され、VOC 排出抑制制度の継続が適当とされ、VOC 排出抑制制度の継続に伴い、引き続き、VOC 排出状況の把握を実施していくことが必要とされている。

表 1 VOC 排出インベントリにおける VOC 排出量の推移

年 度	VOC 排出量 (t/年)	削減率 (対基準年度)
平成 12 年度 (基準年度)	1,410,412	—
平成 17 年度	1,085,607	23 %
平成 18 年度	1,064,358	25 %
平成 19 年度	1,003,563	29 %
平成 20 年度	899,875	36 %
平成 21 年度	821,835	42 %
平成 22 年度 (目標年度)	771,731	45 %
平成 23 年度	742,890	47 %
平成 24 年度	721,038	49 %
平成 25 年度	718,658	49 %
平成 26 年度	698,153	51 %
平成 27 年度	683,923	52 %

注:平成 26 年度までの VOC 排出量は、一部遡及して推計方法を変更しているため、過去に公表された報告書の排出量と異なる場合がある。

2 目的

本検討会は、VOC 排出インベントリの推計精度向上のための方法等を検討するとともに、平成 12 年度及び平成 17～28 年度までのインベントリを更新することを目的とする。

3 平成 29 年度検討会における検討項目

平成 29 年度は過年度の検討結果を踏まえ、以下の 2 項目を優先的に実施することとしたい。

(1) VOC 排出インベントリのまとめ方について(詳細は資料2)

VOC 排出インベントリの推計精度を向上させるため、各発生源品目の推計方法の課題を抽出するとともに改善案を検討する。

また、VOC 排出インベントリの解析を実施し、発生源品目別の推計方法、発生源の再検討、都道府県別排出量などの更新を行うとともに、光化学オキシダントの濃度予測の解析等への利用状況などを踏まえ、VOC 排出インベントリ全体の構成についても検討する。

(2) 成分分析等による成分不明の VOC 排出量の細分化について(詳細は資料3)

過年度に引き続き、インベントリにおいて「成分不明」とされている VOC 排出量について、個別の成分に割り振るための方法を検討する。

インベントリにおける主要な混合溶剤(ミネラルスピリット、ソルベントナフサ、印刷インキ用高沸点溶剤、ゴム揮発油)を対象とし、溶剤メーカー等へのヒアリングから国内の流通状況を把握するとともに、平成 27～28 年度において検討した手法により成分分析を実施する。

また、今後の細分化に係る実施方針についても検討する。

4 検討会のスケジュール(案)

本検討会は以下に示すスケジュールで進めることとしたい。

表 2 平成 29 年度のスケジュール(案)

開催回	開催時期	主な議題
第 1 回	平成 29 年 6 月 13 日 (本日)	① 平成 29 年度 VOC 排出インベントリ検討会の進め方 ② VOC 排出インベントリに係る調査方針について ③ 成分分析等の実施方針について
第 2 回	平成 30 年 3 月頃	① インベントリ検討 WG における検討結果について ② 石油系混合溶剤の成分分析結果について ③ VOC 排出インベントリについて(平成 28 年度排出量)

表 3 (参考)インベントリ検討 WG のスケジュール(案)

開催回	開催時期	主な議題
1～2回 (非公開)	平成 29 年 夏～秋頃	① VOC 排出インベントリのまとめ方について ② 成分分析結果のインベントリへの適用方法について